

創世ホール名画鑑賞会 Vol. 33 樹木希林を生きる

日時：令和3年1月16日(土)

① 午前10時30分 / ② 午後2時

会場：3階 多目的ホール

前売り券の購入について、ただいま図書館カウンターでの販売は停止しております。カウンター及び電話での予約受付のみの取り扱い(前売り券の代金は開催日当日に、受付にてお支払いいただきます)となります。ご了承ください。

入場料：大学生・一般 前売1,000円(当日1,300円)

小・中・高 当日のみ1,000円

シニア(60歳以上)当日のみ1,000円

上映作品：『樹木希林を生きる』

(2019年・日本・108分)

出演▼樹木希林

語り・撮影・監督▼木寺一孝

音楽▼おかもとだいすけ 編集▼渡辺政男

音響効果▼細見浩三

主催：創世ホール名画鑑賞会実行委員会

(☎088-698-1100)

▼2018年9月15日、女優・樹木希林が75歳で亡くなった。作品に奥行きをつくるリアルで味わい深い演技、ユーモラスで心に突き刺さる言葉や軽やかな生き様……今なお私たちを魅了し続ける樹木希林とは何者なのか。

大反響を巻き起こしたドキュメンタリー番組が、多数の未公開映像を加え再編集、装いを新たに映画として生まれ変わる。



©NHK

人形劇団べんべろべえ公演

日時：令和3年2月25日(木) 午前11時

会場：2階 ハイビジョンシアター 入場無料

対象：就学前の子ども 赤ちゃんも大歓迎

演目：未定(※演目は次号でお知らせします。)

問合せ：人形劇団べんべろべえ

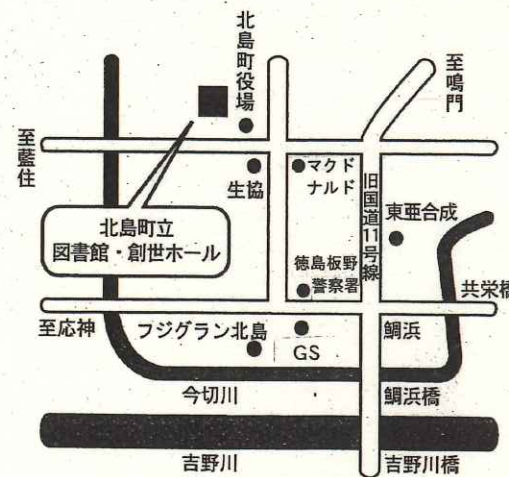
(代表：兵頭 ☎088-698-6652)

※創世ホールに来場される方へ※

▼入場される方には、マスクの着用と手指のアルコール消毒をお願いいたします。

▼観客同士の距離を一定の間に保つため、3階多目的ホールの座席数を減らしております。(前後左右を1席空けてお座りいただくようにしております)

■なお、今後の感染症拡大状況に応じて、対応を変更することがあります。ご迷惑をおかけしまして恐れ入りますが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。



文◎化◎ジ◎ャ◎ー◎ナ◎ル

ししゃもねこの切手シート発売

■北島ブランド認定第1号の《ししゃもねこ》が切手になった（日本郵便発売、税込1460円）。どの様に控えめに表現したとしても、これはまぎれもない快挙と言わなければならないであろう。同キャラクターと作者の川久保貴美子氏は、北島町、そして当館と深い関わりがあるのでここに記録しておきたい。

■まず、《ししゃもねこ》について『北島町史 続編』（平成30年〔2018〕3月31日、北島町）から引用する。

【ししゃもねこ 北島ブランド認定番号001・ししゃもねこ（登録商標）は、ししゃもねこ社の製品である。同社によると、世界に脱力系癒しを提供するユーモラスなキャラクターとして、平成23年1月19日夜に誕生したという。マスコット・携帯ストラップなどの小物や筆箱・バッグなどのオリジナルグッズになり、まずインターネットで人気が出て、やがて地域でも知られるようになった。北島町生まれのししゃもねこは、徳島北警察署（現・徳島板野警察署）の全国交通安全運動イメージキャラクターに採用されたり、新聞・雑誌・テレビなど、マスコミにも取り上げられるなど、大活躍中である。】

■次に作者の川久保貴美子氏について『北島町史 続編』から引用する。

【川久保貴美子 かわくぼ・きみこ 服飾クリエイター、デザイナー、イラストレーター、ししゃもねこ社代表。昭和46年（1971）10月21日、小松島市に生まれる。小学2年生のとき北島町に転入。北島北小学校、北島中学校、県立城之内高等学校を経て跡見学園女子大学短期大学部生活芸術科卒業。頭部が猫、胴体がししゃもというキャラクター「ししゃもねこ」を考案。大ヒットとなる。ガチャガチャ、キーホルダー、ストラップ、クリアファイル、クッキーなど多様な商品が全国展開される。ししゃもねこは、徳島北署（現・徳島板野署）の交通安全キャラクターになったほか、平成27年7月には北島ブランドとして認定された。同20年から北島町立図書館2階ギャラリーで徳島クリエイターズマーケットを開催。来場者2000人超のビッグ・イベントに育てた。共著書に『ししゃもねこ じょ：序』（文・原田剛、絵・川久保貴美子、平成28年11月、ワイヤーオレンジ）ほか。きらめく女性大賞徳島新聞社賞（平成23年）、チャレンジとくしま芸術祭展示部門チャレンジ奨励賞（平成24年）、テトテ・ハンドメイド・アワード2013ゴッカ賞（平成25年）を受賞。】

■川久保氏は昨年鳴門市に転居されたと聞きおよんでいるが、北島町とはずっとご縁を持っていただけのことになっている。今回の切手シートは、1000シート作られ、昨（2020）年12月に発売された。徳島県内の郵便局のほか、四国の高知・愛媛・香川では各中央郵便局、そしてインターネットでも発売。インターネットは即日完売したという。本年2月には、《ししゃもねこ》のガチャガチャの再発売が行なわれるとも聞く。今回は、全国で数万点の発売だったようだが、私が探したときにはもう売り切れていたのだった。

■創世ホールでかつて講演いただいた地引雄一さん（2016年3月20日、演題「東京ロッカーズからプロジェクトFUKUSHIMAへ 国産同時代音楽37年間の目撃証言」）は、《ししゃもねこ》の大ファン



で、切手シートもお持ちであることを書き留めておこう。
■ウナギヌのライバル、我が《ししゃもねこ》の快進撃を心から喜びたい。

小宮山博史さん、渾身著作『明朝体活字 その起源と形成』堂々刊行

■書体設計士にして活字書体史研究の大家、そしてながく佐藤タイポグラフィ研究所を営んでこられた小宮山博史さんの渾身の力作『明朝体活字 その起源と形成』（グラフィック社、2020年9月25日、本体4200円）が刊行されている。B5判・ハードカバー、440頁。大変な重量感と濃い内容、読み応えある活字書体史研究書だ。
■当館では2019年3月16日（土）小宮山さんを講師にお招きし講演会「だれが明朝体を作ったのか～その誕生と歴史」を開催、全国各地から注目を集め、大きな反響を得た。講演では、大量の貴重な図版を投影しながら、明朝体の活字が聖書の普及のために中国で西洋人によってつくられたこと、それが日本に伝えられたことが資料を駆使して実証されていた。本書は、その講演会の最良のテキストと言ってよいと思う。講演で使用された図版がすべて網羅されている。そして講演会以上の深さを持った内容となっている。



明朝体活字 その起源と形成 小宮山博史

明朝体活字が東西の国際ネットワークから立ち上がり、日本に導入・洗練されてゆく過程を豊富な活字史料とともに解き明かす。

貴重な活字見本をほぼ原寸収録。日本語タイポグラフィにかかわるすべての人に贈る決定版。

日常のコミュニケーションのなかで当たり前のように使われている
明朝体活字。
それはいつどこに
誰によって作ら
れ、どのよう
にして日本に
定着したのか。

日本語
タイポグラフィ
研究の
基本図書

■以下に、小宮山さんの文章をつつしんで引用させていただきたいと思う。文字と書体、デザインに関する重要な基本中の基本というべき核心に触れた内容である。

【タイポグラフィの仕事は文章の目的に合わせて書体を選択し、それを読みやすく組むことに尽きます。文章の内容・目的によって、文字サイズ・ウエイト・字間の設定・行間の設定・一行字詰め・行数は変化し、どれ一つとして同じ組みはないと思います。それらを適切に選択し文章を組版ソフトに流し込んで組んだとしてもそれで終わりではなく、その次には行頭・行末の禁則処理などへの細かい調整が必要になります。文中にラテンアルファベットが入る場合もありますし、割註を組む、あるいはルビを振る場合もあります。それらを細心の注意をはらって調整した結果が皆様が目にしている本や雑誌なのです。しかし、本や雑誌の内容に満足したとしても、それを組んだタイポグラフィに思いを寄せることはほとんどありません。タイポグラフィはその辛さに耐えるほかない。認められなくてもできるだけ良い組版を目指すのは、読者に対する良心にほかなりません。印刷表示用の書体は、作り手・使い手・読み手の三者の共同作業によってしか品質を高めることができないのです。】
（小宮山博史『明朝体活字 その起源と形成』325頁）

■本書を、多くの心ある読書人に強く推薦いたします。

全文執筆＝小西昌幸（北島町立図書館等協議会委員長）